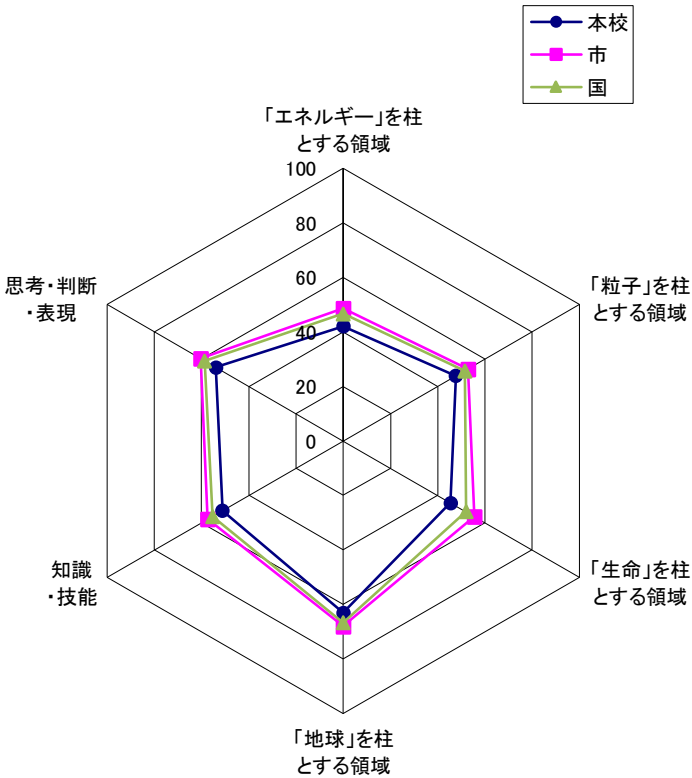


宇都宮市立宝木小学校第6学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	42.0	48.6	46.7
	「粒子」を柱とする領域	47.7	52.8	51.4
	「生命」を柱とする領域	45.4	55.5	52.0
	「地球」を柱とする領域	63.0	67.9	66.7
観点	知識・技能	51.2	57.5	55.3
	思考・判断・表現	54.0	60.4	58.7
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は42.0%で全国平均と比べ5ポイント低い。 ○金属について問う問題など全国平均を1ポイントほど上回っている項目もあり、無回答が0%の問題が全国と比べて多い。 ●記述式での回答率が低く、実験の結果をもとにした思考・表現力に課題があった。	・実験の結果をまとめたり、その結果から分析して理解したり、自分の考えをもったりできるような機会を設ける。 ・計画→予想→観察→考察という科学的探究の流れを意識し、論理的に考える力を育成する。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は47.7%で全国平均と比べ4ポイント低い。 ○問題に対するまとめを導き出す際、解決するための観察、実験の方法が適切であったかを検討し表現する問題では、全国平均に比べ2ポイント近く上回った。 ●水の結露についての概念的な理解を問う問題では、全国平均と比べ11ポイント下回った。	・実験の結果をもとに自分の考えをまとめたり、その中でも問題解決に必要な情報はどの結果であるのかを情報を整理し、選択できたりする力を育成する。 ・条件整理や「なぜそう考えたのか」を説明する指導を通して、論拠をもった記述力の向上を図る。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は45.4%で全国平均と比べ4ポイント低い。 ●顕微鏡の操作技能や、発芽に必要な条件、実験の条件制御などを問う問題で正答率が低く、とくに顕微鏡の操作を問う問題では全国平均と比べ14ポイント下回った。	・自分の観察したものを記録をする際、自分の言葉でまとめたり、改善できることはないかと考えたり、自分の考えを記述するしたりできるように、児童に対して書く視点を明確に指導していく。 ・児童の興味・関心が高い内容については、児童自身もっている知識や気付きを友達と共有する機会を設けることで、学びを広げ、多くの児童の関心を高め思考に結び付ける手立てとしていく。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は63.0%で全国平均と比べ3ポイント低い。 ○水が陸から海へ流れていくことについて水の行方を問う問題については全国平均に比べ8ポイント上回った。 ●結果や問題に対するまとめから予想とその理由を選ぶ問題では、全国平均と比べ10ポイント下回った。	・学習した知識を生活の中と結び付けられるよう、児童が思いつような実体験を例に出したり例えたりしながら分かりやすい指導をしていく。 ・生活との結びつきや実体験に基づいた指導を行い、自然現象を論理的に考察する力を育てる。